

にっせき ぬくもり通信

<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>

Vol.26

2011年10月1日



編集・発行／松山赤十字病院

〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL 089-924-1111 FAX 089-922-6892

《基本理念》人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

画像支援ナビゲーションシステムについて



耳鼻咽喉科 部長

有友 宏

手術を安全的確に行うため
種々の支援機器が開発されて
いますが、今回は画像支援ナ
ビゲーションシステムを紹介
いたします。

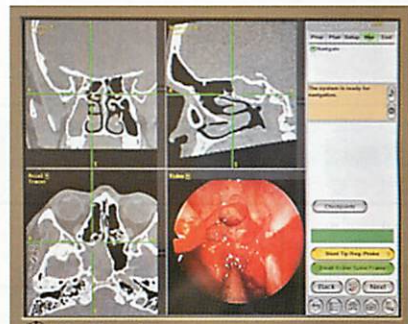
耳鼻咽喉科では耳、鼻・副
鼻腔、口腔、咽喉頭、頸部な
どの疾患を扱いますが、いず
れの部位も複雑な構造をして

おり、それぞれ独特な形態の特徴があります。たとえば鼻
についてみると、狭く奥深い鼻腔の周囲に副鼻腔の空間が
広がっている上に脳と眼が隣接しています。鼻腔や副鼻腔
の形態は個人差が大きく、病変自体によって変形が加わっ
てきます。手術に際しては顔面へのきずは整容的な問題か
らできるだけ避ける必要があります。この点から近年硬性
内視鏡を用いた鼻内手術が普及しました。顕微鏡では鼻の
入り口から鼻腔、副鼻腔まで観察することは困難ですが、
硬性内視鏡を用いると鼻腔のみならず副鼻腔の隅々まで十
分に見ることができます。

手術に際しては病変の状態や解剖学的構造について詳細
に把握するためCT検査を行います。しかし、大きくきず
を開いて病変を確認して行う手術に比べ、現在手術してい
る部位が鼻副鼻腔の中のどの位置なのか、頭蓋底や視神
経、血管などの危険部位にどのくらい近づいているかを正
確に判断するのが困難な場合が多くなります。経験や勘が
必要になってくる部分ですが、この点をより客観的に判断
する助けになるのが画像支援ナビゲーションシステムで
す。ナビゲーションシステムでは自動車で使われるカーナ
ビと同様に現在手術を行っている部分がCTなどの画像上
にリアルタイムで表示されます。写真（上）はナビゲー

ションシステムを使って内視鏡下鼻内手術を行っている
ところですが、写真（下）はナビゲーションシステムのモ
ニター画面です。手術を行っている部位は3次元で表示
されているCT画像上で緑色の線の交点として示されてい
ます。これにより危険部位、病変部位との関連がわかり
やすくなり、手術をより一層的確で安全性の高いものと
することができます。

このシステムは耳鼻咽喉科領域ではとくに鼻科手術で用
いられることが多く、耳、頭頸部腫瘍でも有用とされてい
ます。当科では本年2月から導入し副鼻腔手術のほぼ全例
で使用しています。今後も一層活用し、よりよい医療を目
指す予定です。



全日空から幸福のスズラン

全日空グループでは、入院患者の皆様に元気になってもらうことを願って、昭和31年から毎年、全国各地の赤十字病院等へ幸福の花スズランの寄贈を行っております。

今年は、6月6日（月）、全日空キャビンアテンダントの河内千尋さん（松山市出身）、松山空港スタッフ（地上係員）の井伊恵理さん（宇和島市出身）らが当院を訪れ、北海道千歳市近郊で栽培されたスズランの鉢植え5鉢とスズランの押し花しおり400枚を届けてくれました。贈呈式では、地域医療連携室の三好真由子さんと35病棟の篠崎恭子さんが病院を代表してスズランを受け取りました。その後、キャビンアテンダントは、23病棟、25病棟、35病棟を訪問し、入院患者の方々に「早くお元気になってくださいね」と声をかけながら押し花しおりを手渡していました。受け取られた患者さんたちは、心温まる贈り物にうれしそうに微笑んでおられました。

スズランの花言葉“幸せの再来”のとおり、患者の皆さまの早期のご回復をお祈りしたいと思います。



夜空の下で夢きらめく七夕祭り

すべての被災地に復興の願いを込めて

7月2日（土）、松山赤十字看護専門学校の学生による恒例の七夕祭りを病院ロビーで開催しました。

学生たちは患者さんに喜んで頂きたいと、2ヶ月前からダンスや劇の練習に取り組み、催し物の準備をしてきました。

当日は多くの方々にご参加頂き、金魚すくい、ヨーヨー、輪投げ、歌や劇等で会場は大変盛り上がり、患者さんの笑顔あふれるにぎやかな七夕祭りとなりました。



当院携帯サイトをご覧ください

右のQRコード（二次元バーコード）を取り込むことにより、当院携帯サイトにアクセスできます。

- アクセス
- 外来診療のご案内
- 救急のご案内
- お見舞いのご案内



QRコード